

◎第6回理事会(35.11.22) 出席者:沼田会長,富樫,滝山両副会長,阿部,岡本,小西,林,八十島,末森専務の各理事。**協議事項:**(1)日本学士院編「明治前日本土木史」の著作権の問題については,田中学士院会員と打合わせの上で処理すること。(2)「PC施工指針」無断複製については,当事者の陳謝の意を受理すること。(3)35年度文部省科学研究費等分科審議会委員の候補者推薦については,本間東大教授を推薦すること。(4)論文集の来年度計画については,論文集委員会の最終的意向をきいて次回相談すること。(5)出版企画委員会の運営,構成は編集部長に立案してもらうこと。(6)支部交付金については,次回までにさらに考えること。(7)特別員の増加策,会費と等級別など,関係理事と相談し立案すること。(8)PCグラウト専門委員会の設置および構成を承認。

委員長	国分 正胤	委員	大西 清治
委員兼幹事長	樋口 芳朗		岩崎 訓明
委員兼幹事	柿崎 博雄		山崎 寛司
委員	白木 良昭		杉木 六郎
	小寺 重郎		木庭 宏美
	松野 操平		野口 功
	中村 正平		井上 六郎
	杏掛 哲男		船越 稔
	上前 行孝		只野 直典
	小田 純夫		西沢 紀昭
	板垣 隆義		今村 浩三
	百島 祐信		劉 紹杉

(9)50周年記念事業の準備を始めること。(10)文部省における理工系学生養成計画の学科系統別配分について陳情すること。(11)10月中の会員入退会を承認。

◎各種委員会

(1)コンクリート常置委員会(35.10.31) 出席者:国分委員長,樋口,川口,後藤,田村,池田,小寺,松本,伊東,谷藤(代井上),多田,柳田,杉末,山田,小林,土岐,塚山,村田,浜本,吉田の各委員,長滝,池田の両氏。議事:1)異形鉄筋の試験研究について:八幡,尼崎,富士各製鉄会社の異形鉄筋試験研究の依頼予定の取扱い方および各委員が各試験機関の可能な量,試験方法を調べることとなった。2)国鉄の異形鉄筋試験計画資料を提出し,田村,小寺両委員から報告があった。3)関東復建事務所から出されたコンクリート標準示方書に対する改訂意見および質問事項について審議し,次回までに研究しておくこととなった。

(2)第6回文献調査委員会(35.11.2) 出席者:久野委員長,石井,今岡,鮮干,高野,徳田,安芸,石原,佐藤,田中,駒田の各委員,日野幹事。議事:1)45巻12号登載抄録,目録の選定。2)各大学の紀要の取扱いは到着順に登載すること,3)各国際会議論文題目の取扱いについて。4)その他。

(3)第13回プレストレス コンクリート設計施工指針改訂小委員会(35.11.4) 出席者:国分委員長,山田(代塚山),猪股,三浦,松野,清野(代横溝),小寺,丹,中村,上前(代小村),宮崎(昭),小田,野口,木庭,湯田坂の各委員,井上,船越の両幹事。議事:1)第2原案 24,25,26 および前回審議未了の許容応力度の箇条 66,67 条の各条審議。第14回(35.11.15) 出席者:国分委員長,宮崎(義),山田(代塚山),猪股,川口,松野,今村,清野,樋口,丹,中村,上前(代小村),宮

崎(昭)(代泉),小田,野口,板垣(代猪又),大西の各委員,井上,船越の両幹事。議事:第2原案 27,28,29,30,31,32 条を逐条審議。第15回(35.11.24) 出席者:国分委員長,宮崎,山田(代塚山),猪股,川口,松野,今村,清野,樋口,丹,上前,宮崎(昭),小田,野口,大西,百島の各委員,井上幹事。議事:第2原案 34,35,36,38,39,40,41,43,45,47,49 の各条を審議。第2原案 58,60,61,57,46 条を配布。

(4)第6回編集小委員会(35.11.9) 出席者:斎藤委員長,堺副委員長,林(四),山本(代大塚),米沢(代青木),網干(中四)の各委員。議事:1)45巻11号に絵写真,ニュースの選定。2)12月号編集につき最終的な打合わせを行なった。

(5)第11回フライアッシュ小委員会(35.11.11) 出席者:国分委員長,有泉(代大藤),三浦,平野(生)(代野木),関,山田,左右田,高橋,武藤,久木田,杉木,太斉の各委員,塚山,長滝の両氏。議事:1)フライアッシュ講演原稿の論文集について,国分委員長より進行状況を説明した。2)耐久性試験について,三浦委員の原案をもとにして審議した。3)新委員の推薦,国分委員長より次の推薦があった。塚山(日本セメント研究所),土岐(小野田セメント研究所),長滝(東大 大学院)。4)その他。

(6)海岸工学委員会(35.11.12,神戸市について,出席者:本間委員長,永井,田中,岸,速水,篠原,岩垣,福島,真嶋,細井の各委員,室田氏。議事:1)Coastal Eng. Vol. 3 の進行状況および Vol. 4 原稿 10ページ程度 12月中に提出を求めること。2)来年度の海岸工学講演会は北海道とし,時期は8月末か,9月初旬とし福島,岸両委員で計画してもらうこと。3)来年2月頃委員会を開き委員の構成を考慮すること。4)海岸工学用語集の調整を田中委員にお願いすること,海岸保全施設設計便覧の改訂,土木賞推薦のこと,文部省科学試験研究等について話し合った。

(7)第3回論文集編集各部委員会(35.11.16) 出席者:第1部会:君島部会長,井上,平嶋,久保,竹間,倉西(東北)の各委員,大久保部会幹事。第2部会:林部会長,中山,高橋,吉村(代是枝),藤波(代橋本)の各委員,芦田部会幹事。第3部会:最上部会長,高橋(国),高橋(彦),渡辺,森,永盛,久野,松尾(関西)の各委員,山口部会幹事。第4部会:丸安部会長,多谷,斎藤,鈴木,藤井(代中野),柳田の各委員,佐藤部会幹事,西脇委員会幹事。議事:1)各部会で審査中原稿の審査報告。2)新規受付原稿審査委員の決定。3)地方委員の追加について。

東北支部	倉西 茂氏(第1部会)
中部支部	増田 重臣氏(第2部会)
関西支部	松尾新一郎氏(第3部会)
中四支部	15日現在未定(第4部会)

4)その他。

(8)第3回文献調査幹事打合せ(35.11.17) 出席者:久野委員長,安芸,石原,徳田の各委員,日野幹事。議事:各種分類について幹事会案をまとめた。

(9)第8回土木技術者資格研究委員会(35.11.24) 出席者:鈴木委員長,佐藤(代),高畑,富樫,西松,比企,西嶋の各委員,樽井幹事。議事:1)比企委員起草の土木士制度原案を中心に論議された。2)本原案の主旨を承認すること。3)構造物の問題は,なお,検討をつづけること。4)とりあえずほかの法律に関係しない土木関係の政令による規則または基準法を建設省で研究し次回までに原案を作ること。

(10)第6回会誌編集委員会(35.11.25) 出席者:沼田会長,斎藤,堺正副委員長,浅井,井前,斎藤,相良,佐藤,嶋(代

椎貝), 榎野, 西田(代城所), 林(四), 林(茂), 谷田沢, 山本(代大塚), 吉田, 横戸, 米沢, 後藤(東北), 増田(中部), 田中(関西)の各委員, 杏樹幹事。議事: 1) 審査中原稿の審査報告。2) 新規受付原稿審査委員の決定。3) 依頼原稿について。4) アンケートの結果について。5) 新年号よりの編集方針について。6) 46巻1号登載原稿を次のとおり予定した。

矢崎道美・大島達治: チューブラー・タービン(筒型水車)について一人来田発電所改修工事の概要とともに一, 高橋彦治: トンネルの地質調査のための工事上の問題点, 田中 清: 長柄橋(人柱伝説雑考), 小栗良知: 海外建設事業の推進とフィリピン事情, 木村英夫: ローマのオリンピック諸施設, 坂上義次郎: 土木研究所紹介, 太田尾広治: 運輸技術研究所紹介。

(11) 第1回グラウト専門委員会(35.11.28) 出席者: 国分委員長, 樋口幹事長, 小寺, 松野, 中村, 上前, 小田, 板垣(代), 百島(代), 大西, 岩崎, 山崎, 杉木(代), 木庭, 井上, 船越, 只野, 西沢, 今村, 劉の各委員, 柿崎幹事, 鈴木氏(道路公団)。議事: 1) 樋口幹事長から今までのグラウト実験結果を報告。2) 前回打合せにおいて試験することになった2種のポートおよび試験器具の操作方法等につき樋口, 松野, 柿崎諸氏から説明。3) 作られたポートを各委員に配布, それぞれ実験してデータを提出すること。4) その試験方法につき審議。

(12) 第3回論文集部会長会(35.11.30) 出席者: 最上委員長, 君島, 林, 大久保, 芦田, 山口, 佐藤の各委員, 西脇幹事。議事: 1) 各部会報告。2) 論文集第72号登載原稿の予定。3) 72号・別冊の予定。4) 来年度の編集方針につき協議した。

◎諸行事

(1) 秋のエキスカージョン(東海道視察バス旅行, 道路工事その他の見学会)

東班 11.1~11.3 計121名(土木学会82名, 建設機械化協会39名)

西班 11.4~11.6 計104名(土木学会77名, 建設機械化協会27名)

建設機械化協会と共催でバス3台による大がかりな東海道沿道視察団を組織し参加者一同より「思ったよりはるかに楽しかった」との賛辞をいただき, 東班(東京五反田~兵庫県西宮市甲子園球場前~大阪梅田), 西班(大阪梅田~東京吾妻橋~東京駅前)とも一人の落伍者もなく無事散会することができた。成功をおさめた原因のいくつかを列記してみると, a) 予期した以上道路の整備状態がよかったこと, b) 提供されたバスが, いずれも非常に優秀であったこと, c) 運転者の注意が行きとどいていたこと, d) 参加者がつまったスケジュールにもかかわらず理解ある協力を示したことなどがあげられる。紙面の関係で詳細は西班に参加された近藤泰夫氏の寄書を参照していただくこととして, 今回の催しに全面的に御協力賜わった下記の関係各位に対し, 参加者一同を代表して誌上より厚く御礼申上げる次第であります。

バス提供者: いすゞ自動車KK, 日産民生ジーゼル販売KK, 三菱ふそう自動車KK

協力者: 小林建設省大臣官房機械課長, 長尾土木専門官, 中安中部地建局長, 加藤道路・西畑河川両部長, 豊田企画室長, 三浦沼津・磯崎静岡・八木田磐田・片岡豊橋・安倍名古屋の各国道, 工事々務所長, 玉井近畿地建局長, 井部企画室長, 大島滋賀・高橋第二阪神の両国道工事事務所長, 中山瀬田川洗堰工事々務所長, 近藤泰夫氏, 原口運輸省清水港工事々務所長, 友田静岡県, 近藤滋賀県, 北村奈良県および沿道各府県土木部長, 坂本国鉄静岡幹線工事局長, 青笹日本道路公団東京支社長, 畠山同大阪支社工務部長, 名神高速道路部第一建設局, 高橋同

試験所長, 小倉東京都交通局高速電車部長, 小林名古屋市長, 松見同建築局長, 松本金吾氏, 川勝京都市土木局長, 貝原大日本土木KK土木部長, 飯田KK間組営業部長, 田中同取締役, 奈須川同シンセン伊豆丹那建設所次長, 小宅飛島土木KK常務取締役, 阿部KK勝呂組社長, 藤田KK藤田組社長, 田伏関西道路建設KK社長, 白石基礎KK社長, 岡本同常務取締役など多数の方々ならびに関関係係員各位(以上は順不同)。

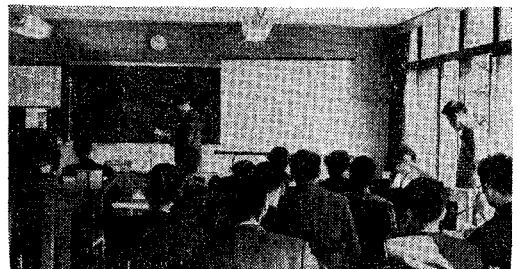
(2) 風のシンポジウム(35.11.4, 建築学会において9学会共催)

出題: 一般講演18題 特別講演2題
参加者: 70余名

(3) 第4回地震工学研究発表会(35.11.7~8, 土木学会会議室において)

出題: 研究発表3題 特別講演および報告6題
参加者: 延べ約80名
見学会: 京葉道路, 土木研究所千葉支所
参加者: 15名

第4回地震工学研究発表会会場風景



(4) 第7回海岸工学講演会(35.11.10~11, 大阪商工会議所において)

出題: 34題, 参加者: 300余名, 見学会:(35.11.12)
大阪港, 尼崎港, 神戸港, 参加者: 130名

支 部 だ よ り

1) 東北支部

(1) 見学会 35年10月31日 蔵王道路(第2工区)工事
参加者: 80余名

(2) 講演と映画の会 35年11月8日 会場: 宮城県泉働工会館
参加者: 150余名

講演: チリ地震津波について 東北大学教授 岩崎敏夫
映画会: 台風に挑む——伊勢湾台風
アスファルト舗装, 目屋ダム記録, チリ地震津波記録

2) 中部支部

(1) 第7回幹事会および第2回役員会(35.10.17, 大山水道寮) 出席者: 橋本支部長, 荒井, 鈴木(和), 小谷(代), 伊藤(政)(代)の各評議員, 伊藤(太), 船越, 大崎の各常議員, 増田学会誌編集委員, 渡辺幹事長, 後藤(代), 高橋(代), 高田, 富永, 加藤, 宇佐美, 栗田(代), 島田(代), 滝淵, 榎, 藤本(代), 倉田, 白井, 鈴木, 菌田, 長坂, 栗栖, 吉村(代)の各幹事。

(2) 第4回見学会

1) 見学先: 自衛隊小松飛行場 基地拡張工事現場, 農林省加賀三湖干拓工事現場

2) 参加者: 44名

3) 経過: 午前9時金沢駅前を2台のバスに分乗して出発, 途中国道8号線の整備状況を見学しつつ小松基地に到着, 滑走路の新設工事を中心に基地内全般を見学後山代温泉で昼食休憩し, 午後は引きついで柴山湖一帯の干拓工事の現場を見

学して再び国道8号線をとおり金沢に帰着、午後5時すぎ解散した。あいにく終日雨天のため十分に下車見学する事ができなかったが、参加者一同熱心に最後まで見学を行なった。

(3) 支部大会

昭和 35 年度の支部大会は 10 月 22, 23 日の両日静岡市を中心に沼田学会長の参加を得て盛大に行なわれた。

第 1 日 総会 (静岡県民会館), 見学会

- (1) 挨拶 橋本支部長
- (2) 挨拶 静岡県知事
- (3) 会務報告 渡辺幹事長
- (4) 挨拶 沼田会長
- (5) 記念講演

静岡県における土木事業の概要について
静岡県土木部長 友田清三

静岡幹線工事局の概要について
国鉄静岡幹線工事局長 坂本貞雄

橋本支部長のあいさつ



総会終了後バスで静岡を出発、途中登呂遺跡、国道1号線、狩野川放水路工事現場を見学しつつ長岡温泉かつらぎ館に到着、休憩の後、大広間に設けられた懇談会場で一同和気あいのうちに歓をつくり、同館に宿泊した。

第 2 日 見学会

午前9時前宿舎を出発狩野川復旧工事現場を車窓に見ながら当時の被害の大きさに思いをはせ、大室高原サポテンセンター、天城高原ロッジを経て午後2時伊東駅前で解散、参加者約100名は静岡県当局の絶大な御配慮に心から感謝しつつ2日間をわたる支部大会を終了した。

(4) 第8回幹事会 (35.11.8, アラスカ) 出席者: 渡辺幹事長、高田(代)、富永、谷、加藤、宇佐見(代)、栗田、島田、滝淵、榎、藤本(代)、松久(代)、土方、倉田、白井の各幹事。

(5) 研究発表会 (35.11.22, 名古屋工業大学) 発表題目および発表者は次のとおり。聴講者は120名で盛会であった。

- 1) 10.10~10.30 格子ゲタの振動解析について (第2報)
名古屋工業大学 松浦 聖
- 2) 10.30~10.50 Digital Computer による構造物の設計
岐阜大学工学部 井上 肇
- 3) 10.50~11.10 吉根橋下部工の施工について
愛知県土木部 柳瀬 茂
〃 〃 〃 蛇川 雄司
- 4) 11.10~11.30 境川橋工事について
愛知県土木部 山本 哲
〃 〃 〃 坂井 尚弘
- 5) 11.30~11.50 中部地建管内1級国道の将来交通量について
建設省中部地方建設局道路部 壺本 信一
- 6) 11.50~12.10 交差点容量の OR 的考察
名古屋工業大学 渡辺 新三
岐阜大学工学部 〃 加藤 晃

(昼食)

- 7) 13.00~13.20 微粒土の透水係数の一推定法について
金沢大学工学部 工博 西田 義親
日本道路公団 〃 堀 文二
西松建設KK 杉田 幸一
- 8) 13.20~13.40 砂の透水係数の時間的変化
岐阜大学工学部 富永 正俊

- 9) 13.40~14.00 中広堰を越える流れ
岐阜大学工学部 山辺 春雄
- 10) 14.00~14.20 移動床河川横型における限界掃流力付近の相似性について
岐阜大学工学部 増田 重臣
〃 〃 〃 河村 三郎
- 11) 14.20~14.40 砂防ダム上流における安定な縦断形状について
名古屋工業大学 土屋 義人
建設省黒部工事事務所 〃 須山 洋
- (休憩)
- 12) 14.50~15.10 雨水流出を対象とした場合の山腹斜面形の取り扱い方について
金沢大学工学部 〃 金丸 昭治
中部電力KK 〃 森下 強
- 13) 15.10~15.30 管路による排送土砂の分布について
名古屋港管理組合 〃 木村 孝男
〃 〃 〃 鳥居 教夫
- 14) 15.30~15.50 海岸に接続する河川堤々防高決定の一例
建設省中部地方建設局河川部 宮井 博
- 15) 15.50~16.10 レールの温度変化による伸縮とクランプとの関係について
金沢大学工学部 工博 〃 小野 一良
〃 〃 〃 成瀬 忠明
- 16) 16.10~16.30 最近の都市交通事情と地下鉄の将来計画
名古屋市交通局 伊藤 太郎

3) 関西支部

(1) 第4回見学会 (35.10.29, 名神高速道路山科舗装工事) 参加者 91 名, 参加費 100 円。

(2) 土木学会, 日本建設機械化協会役員交歓会: 日時: 35.11.3 (東海道バスによる道路その他見学会, 東班大阪着当夜, 阪急ビル8階特別食堂) 出席者: 沼田会長, 滝山副会長, 末森専務理事, 阿部一郎理事, 菊地英彦名誉員, 捧巻総務課長, 堀内事業課長, 朝倉会計課長, 岡本編集課長, 中山会員課長, 平田会計課員, 峰岸事業課員, 石塚編集課員, 日本建設機械化協会金井事務局長, 同毛木庶務課長 (以上東京側), 土木学会関西支部高西, 橋本, 近藤(泰), 鈴木の各元支部長, 日本建設機械化協会玉井支部長, 佐野常任理事, 上竹事務局長, 土木学会関西支部近藤支部長, 小西幹事長, 石田, 伊東, 井部, 毛利の各幹事, 大島商議員, 片山主事 (以上大阪側)。

(3) 工事研究会 (35.11.8, 大阪国際空港) 参加者 40 名, 会費 200 円。

(4) 第7回海岸工学講演会 (35.11.10~12) 土木学会海岸工学委員会, 土木学会関西支部共催

①講演 (35.11.10, 大阪商工会議所) 一般講演 30 題, 特別講演 1 題 (報告), 映画, 参加者約 280 名, 参加費 600 円。

②見学 (35.11.12, 大阪港, 尼ヶ崎港, 防潮堤, こう門, 神戸港, 神戸製鋼灘浜埋立工事) 参加者 130 名, 参加費 200 円。

(5) 支部年次学術講演会 (35.11.13 大阪工業大学) 一般講演 64 題, 特別講演 2 題, 参加者 258 名, 講演概要 B 5 判 202 ページ無料配布。

(6) 技術講座 1 号 (35.11.19~21, 大阪市立大学) 参加者: 講義 285 名 (参加費 100 円), 実習延べ 864 コース (参加費 1 コース 30 円)。

(7) 昭和 35 年度土木賞候補支部推薦打合せ (35.11.26, 大阪建設会館) 出席者: 近藤支部長, 小西幹事長, 松尾京大助教授, 伊藤幹事, 畑中神戸大教授, 倉田阪市大教授, 井部幹事, 打田幹事, 宮崎幹事, 北村幹事, 石田幹事。

(8) 第7回幹事会 (35.11.26, 大阪建設会館) 出席者: 近藤支部長, 小西幹事長, 岡田, 大村, 毛利, 石田, 伊藤, 小林(代今井), 北村の各幹事。

(9) 第2回商議員会 (35.11.26, 大阪建設会館) 出席者: 高

議員 篠原(代利田), 山下(代長尾), 大島, 関(代住吉), 三上, 川島, 加納, 畑中, 齋藤(代小林), 長谷川, 岩垣, 吉田, 水野(俊), 小西, 梅村(代豆腐), 竹元, 河盛, 谷, 常議員 三宅, 岩井, 東(代長尾), 近藤支部長, 小西幹事長, 伊藤, 石田, 大村, 岡田, 北村, 小林(代今井), 毛利の各幹事。

(10) 商議員異動 (35.11.26 付) 昭和35年度補欠, 新任菟原三郎氏(滋賀県道路課長) 前任牧野文雄氏富山県へ。

4) 西部支部

昭和35年度秋期講演会ならびに見学会報告

(1) 講演会 11月11日~12日 会場: 鹿児島県農林センター講堂, 参加人員: 140名

講演題目:

オランダの干拓 九大教授 高田 雄之
鹿児島県下の地質について 鹿大教授 波多江信広
欧米視察報告 鹿児島県土木部長 長瀬 新
霧島道路工事概要について

道路公園霧島道路工事々務所長 時 任 喜 哉
B.B.R.V 工法について

東亜コンクリートKK常務取締役 佐藤 隆 治
最近の橋梁について 桜田機械工業KK 前田 幸 雄

この他, 鹿児島県観光課・広報文書課提供による「鹿児島県の観光」映画が観賞された。

(2) 見学会 11月12日 霧島有料道路工事見学。

編 集
後 記

昭和35年も暮れてここに最終号を出すことになりました。ふりかえってみますと今年は巨頭会談, 米大統領選挙, 安保改定, 右翼テロ事件等と内外ともに多事多難の年でありました。年初には黄金の60年と称されてジャーナリズムにもはやされた年でありましたが, ややその期待を裏切った感があります。

しかしながら選挙戦も一段落して国内政治も落ちつき, 経済面ではさらに着実な繁栄が確実視されており土木業界においても工事量の飛躍的な増大が予想されております。学会誌にもしばしば報ぜられておりますように, 土木技術の海外進出も盛んになって参りましたし, また一方道路公園の国際入札も行なわれるという状勢でありますので経済界の活況とともに, 最近の新技術や工法などをひろく現場にとり入れる絶好の機会であると存じます。このような意味でも会員と学会とをより一そう密接に結びつけ, また

研究室のデータを現場に役立たせるために学会誌の重要性はもっともっと認識されなければならないと存じます。今月号の報文はどちらも設計のための事前調査や現地の破壊試験についての報告であります, 新しい技術が実際の工事や設計にとり入れられるためには, どのようなプロセスを経なければならないかということが, よくわかるのではないかと思います。

今年の3月号であったか, 論説の中に会員にとって学会誌は広告と名簿しか利用されていないからもっとその内容と編集技術について工夫が望ましいと某先輩に指摘されたことがありましたが, 私共編集委員としてもさらに努力しなければということを感じております。学会誌が読みにくいということをよくいわれませんが, これは例えば工事報告に例をとりますと, ニュース的な読み方をするには少し長すぎるし, また実際に類似の工事に参考にするためにはページ数に制約されてそのまま役立つデータにとほしいと

いったような事が関係がありはしないかと思えます。ページ数から考えて技術参考書やデータブックのようなものは望めないし, かといって講座のように編集者が依頼した原稿ばかりでまとめ上げるのも会員お互いの会誌という意味から好ましいものではないでしょう。そんなことも考え合せることやほり今の形での報文でもその表現方法を平板羅列にならぬよう工夫をこらし, 例えば何がこの工事の問題点か, どこで難点にぶつかってどのように切りぬけたか, というような事について特に重点的にくわしく発表していただければもっと興味をもって読んで頂けるのではないかと思います。また現場技術者の方々もこの会誌を発展させ自分のものにするためにもっともっといわゆる問題点意識をもつ必要があるのではないのでしょうか。会誌の編集について会員各位の活発な御意見を期待します。

— 11月21日, 総選挙開票 —
の報道を聞きながら

【中国四国支部 網干・記】

会員入退会について (昭和35年11月30日現在)

1. 入 会 139名(正 62, 学 73, 特 1 C 2, 特 3 2)
2. 退 会 20名(正 20)

会員現在数 (昭和35年11月30日現在)

名誉	賛助	特級	特 1 A	特 1 B	特 1 C	特 2	特 3	正員	学生員	増加	総数
32	30	8	11	21	105	128	128	13 662	1 269	119	15 394

正 員	吾 田 真 規 君	オリエンタルコンクリートKK工務部	昭和35年11月1日死去	27才
正 員	池 上 重 吉 君	鹿島建設KK顧問	昭和35年10月31日死去	81才
正 員	紀 本 正 二 君	建設省河川局計画課長	昭和35年11月5日死去	47才
正 員	丸 山 総 一 郎 君	建・近畿地建天ヶ瀬ダム工事々務所	昭和35年10月28日死去	31才

昭和35年12月10日印刷

印刷者 大沼正吉
発行者 末森猛雄
定価 100円

昭和35年12月15日発行

印刷所 株式会社技報堂
発行所 社団法人土木学会
振替 東京 16828 番

土木学会誌 第45巻 第12号

東京都港区赤坂溜池5番地
東京都新宿区四谷一丁目(外濠公園入口)
電話 (351) 5130・5138・5139 番